

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1107 2012年6月号

## ニッセイ“土佐山田の森”育樹活動

5月26日、高知県香美市土佐山田町の国有林において「ニッセイ土佐山田の森」育樹活動が行われました。 【詳細は2頁】





手鎌の安全な使い方の説明

当日は、「ニッセイの森」友の会会員（代表 日本生命高知支社長 村田 功二九名、ニッ

「ニッセイ緑の財団」と国が分収造林契約を締結、約1haの広さにクヌギ三〇〇〇本が植樹されているものです。

響で足下が滑りやすい条件でしたが、全員が怪我もなく作業を終了することができました。

最初は慣れない鎌での作業で少し戸惑いがあったものの、時間がたつにつれ鎌の扱いにも慣れ、参加者は心地よい汗を流しました。

度度の技術開発実施計画に

今回の平成二三年度に実施した四課題の調査結果等に、二四年度新規課題の「囲いわなによる効率的なニホンジカ捕獲試験」を加えた平成二四年度の技術開発実施計画に

では、確実に捕獲がで

改良及び伐採方法の検討」では、日本人の体格に合った器具の開発等、今後の調査・分析に期待している。③「囲いわなによる効率的なニホンジカ捕獲試験」



「ニッセイ土佐山田の森」で育樹活動

〈嶺北森林管理署〉

五月二六日、高知県香美市土佐山田町檜谷立割不寒冬山国有林の「ニッセイ土佐山田の森」において育樹活動が行われました。「ニッセイ土佐山田の

セイ緑の財団（理事長 新居尊夫）四名と、嶺北森林管理署から五名が参加しました。

主催者、来賓からの挨拶のあと、安全な作業の注意点などの説明を受けた後、三班に分かれて、二〜三mの高さまで育ったクヌギの周りに茂っているカヤ類などを手鎌で刈り払う作業を行いました。



「平成二四年度 第一回技術開発委員会」を開催

〈森林技術センター〉

六月八日、四国森林管理局において、今年度第一回目の技術開発委員会を開催しました。

委員からは、『①「天然林におけるスギ天然更新技術の確立」では、天然

技術開発委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要領に基づき、森林生態学、林木育種、遺伝資源、森林管理経営等の専門家の委員で構成されています。

林におけるスギ天然更新技術の確立」では、天然林におけるスギ天然更新



平成 24 年度第 1 回技術開発委員会

きて、決して逃がさない方法を開発してほしい。近年愛媛県でも二ホンジカ被害が増加傾向にあることから情報交換を願いたい。』など、各課題に対し多くの意見が出されました。

今回頂いたこれらの意見等を踏まえて、今後の試験地調査、器具の改良などを検討することとしています。

## 各地のたより

### 堂ヶ森祭で木工教室

〈ふれあいセンター〉

五月五日子供の日、高知県四万十市と四万十町の境に位置する堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催され、もち投げやちびっこ相撲、おんな相撲などのイベントが行われる中、当センターも青空木工教室を開きました。

五月五日子供の日、高知県四万十市と四万十町の境に位置する堂ヶ森の山頂（国有林、標高八五七m）で毎年恒例の「堂ヶ森祭」が開催され、もち投げやちびっこ相撲、おんな相撲などのイベントが行われる中、当センターも青空木工教室を開きました。

会場の準備が整うと、早速、子どもたちが集まってきました。今回、作製する「くまのストラップ」は、小さな子どもにも簡単に



体験できるように、当センターがサクラの端材などを組み合わせて準備したキットを使います。作るのは難しくありませんが、子どもたちは、どうすればより一層可愛らしくなるかと工夫をこらしていました。

そして、友達と競ったり、姉妹で助け合いながら世界に一つのオリジナルストラップが完成すると、大喜びで家族に披露していました。

近年は、参加する子どもの数が減少しているとのことで、用意したキットも一部、日の目を見ることのないかと心配しましたが、かつての子ども

もの数が減少しているとのことで、用意したキットも一部、日の目を見ることのないかと心配しましたが、かつての子ども



木工教室

に設置されていた雨量観測計。構造物は既に撤去されており、「埋めた場所が分からない！」と、微かな記憶頼りの大捜索が始まりました。

それでも人々から笑顔が消えることはなく、一時間ほどして宝箱が発見されると大歓声や拍手が沸き起こっていました。

国有林は、このように地域の人々の暮らしと関わり、喜びや楽しみを共有してきたのだなど実感させられる一日となりました。

また、恒例のお祭りではありましたが、今年はいつもと違うことが一つ。二〇年前にお堂を再建した際の記念に埋めたタイムカプセルを掘り起こすという一大イベントが含まれていました。

ところが、その埋設場所の目印はかつて国有林





## 親子で木工クラフト

〈ふれあいセンター〉

五月一三日、愛媛県宇和島市立宇和津小学校の四年生二三名と、保護者を対象に、森林教室を行いました。

同校での森林教室は初めてのことで、最初にスライドで当センターの活動内容と「森林の働き」

について説明しました。「森林の働き」では、森林の持つ「水を蓄える」、「山崩れを防ぐ」、「快適な環境をつくる」、「地球の環境を守る」などの七つの働きについて学習しました。

次に、「木工クラフト」では、最初に、怪我をしないようにノコギリやナイフなど道具の安全な使い方を習った後、製作に取りかかりました。

### カッターナイフの使い方

早速、見本を参考に動物のストラップやクマの置物などを作ろうとする女の子。男の子にはカブトムシやクワガタが大人気でした。最後には、ほぼ全員がモックン（鉛筆）を作るなど、親子で仲良く工作する光景が

見られました。

ふれあいの場ともなった初めての森林教室は、保護者にも大変喜ばれ、先生からは、早速、今後の森林教室について相談がありました。

## 保護林設定記念の

### 登山行われる

〈徳島森林管理署〉

六月三日、徳島県つるぎ町一宇の久敷国有林八三林班周辺で、津志嶽（つしだけ）シャクナゲ登山が行われました。

津志嶽（一、四九四m）の東面には、他では見られないシャクナゲの古木が群生しており、古くから地元住民は郷土の宝として大切にしてきました。昨年、つるぎ町から「地域の活性化と振興に資するとともに、

今後ともシャクナゲ林を適切に保護・管理していくため、郷土の森に設定したい。」との申請があり、九月三〇日に新木森林管理局長と兼西つるぎ町長の間で津志嶽シャクナゲ郷土の森保存協定が結ばれました。

今回の登山は、この保護林の設定を記念し、シャクナゲの開花時期に合わせて開催されたもので、つるぎ町が募集した参加者とガイド役のNPO 剣山クラブの方々に加え、スタッフとしてつるぎ町と当署の職員、総勢三十四名が参加しました。

当日、麓の久敷集落の阿弥陀堂で開会式が行われ、当署から国有林の

状況と保護林設定の経緯を説明しました。その後、剣山クラブのメンバーから周辺の植物などの説明を受けつつ、津志嶽に登りました。

約二時間で苦しい登りの後、保護林の入口でピンクのシャクナゲの花を発見した一同から思わず感激の声があふれたほど、シャクナゲはこの登山に合わせたように満開となっていました。この保護林の中には、胸



満開のシャクナゲを楽しむ参加者



満開のシャクナゲを楽しむ参加者

に協力したいと考えています。また、郷土の森の「保護、管理及び利用計画」に沿って、つるぎ町と連携して歩道や標識類の整備などを行うこととされています。

高周囲八二cm、推定樹齡三九〇年のシャクナゲの大きな木がありますが、この木を含めて、今年にはシャクナゲの花の数が多く、シャクナゲ群生地はまるでピンクのドームのようでした。昼食後、健脚組は、津志嶽山頂まで一時間以上をかけて往復しましたが、足に自信の無い参加者は、シャクナゲを眺めたり、カメラに納めたりと、心ゆくまで

シャクナゲの豪華な花を堪能したようでした。夕方、疲れて下山した一行を、地元久敷集落の方々が、味噌田楽と熱いお茶で接待してくれました。つるぎ町は、「つるぎクラブ」と称するイベントを積極的に実施しており、「津志嶽シャクナゲ郷土の森」もツアーのツールとして活用されているため、当署は今後ともこうした活動

### 剣山クリーン

### ハイクに参加

〈徳島森林管理署〉

六月三日、恒例の剣山クリーンハイクが実施され、当署も参加しました。

クリーンハイクは、西日本第二の高峰である、剣山でもゴミ問題が顕在化したことから、徳島県勤労者山岳連盟が呼びかけて実施しているもので、今回で三十八回目を迎えました。

た。剣山の西斜面が国有林であり、当署は、クリーンハイクを後援している剣山自然休養林等保護管理協議会のメンバーでもあることから、近



剣山西島駅(リフト)周辺で樹木ガード設置の様子

年は欠かさず参加するようになっていきます。今回は関係する小川、池田の森林官を含め、当署から五名が参加しました。

剣山周辺のゴミは、クリーンハイクなどの取組によって減少していることから、今回は、新たにつるぎ町側の夫婦池周辺でのゴミ回収及び見ノ越登山道周辺での樹木ガード設置を行う

こととしました。

夫婦池には、以前、キャンプ村や「県民の森」関連施設が設置されていたため、古い空き缶などに混じってドラム缶や便器などの粗大ゴミも放置されており、参加者も驚くほどの量(五〇〇kg)のゴミを回収することができました。

また、剣山でもニホンジカの生息数の急増により、下層植生の消失や樹皮を剥がれた樹木の枯損が目立つようになっており、今回は当署から資材や道具を提供し、見ノ越から西島間の名頃谷山国有林四七林班で、ニホンジカが好むナナカマドやリョウブなどの幹に樹木ガードを設置しました。資材の量も限られていたため、保護した樹木は約六〇本でしたが、ニホンジカ被



夫婦池周辺で収集されたゴミの状況

害は予想よりも深刻で、参加者もこのような取組の必要性を認識されたこととされています。

今回のクリーンハイクには、事務局にあらかじめ参加登録した者は五八名でしたが、当日参加した人もいたため、約一〇〇名が参加し、夫婦池周辺のゴミを含め、六〇五kgのゴミを回収することができました。参加者は、きれいになった登山道周辺や設置した

樹木ガードに満足そうに見入っていましたが、当署としても、今回のクリーンハイクのような国有林周辺でのボランティアな取組に、県や市町村、NPOと連携しながら支援と協力を行い、「開かれた国有林」のPRに努めていきたいと考えています。

### 親子での

## 森林教室を実施

〈徳島森林管理署〉

六月七日、徳島市立上八万幼稚園で、園児三二名と保護者を対象とした森林教室（木工クラフト）を行いました。

当署では、前期と後期に分けて公募により森林教室を実施していますが、今回の森林教室は前期分として

選定された七件のうち、その第一回目の森林教室として実施したもので、上八万幼稚園からは「親子でふれあいや一緒に楽しむことができる活動をお願いしたい。」という内容で依頼をうけました。

子供たちは室内から見える

森に目を向けたり、元気な声で返事をするなど真剣に話を聞いていました。また、園児からは、「森とはなんですか?」「どうして動物は森に住んでいるのです

か?」などの質問があり興味津々の様子でした。木工クラフトでは、徳島県産のスギ間伐材を使用した「写真立て」を作りました。木の枝などで作った動物や、ドングリ、松ぼっくりで飾り付けをして、思い思いに「写真立て」を仕上げ、中には小枝を束ねて木の幹に見立てるなど、思いも付かなかった創作もありました。



写真立て（木工クラフト）

り、子供ならではの視点に勉強させられる形となりました。なお、この活動の様子は、地元の徳島新聞にも掲載されました。当署では、森林の公益的機能や木材利用についての理解を深めてもらうため、地域や学校等の要望に応えつつ、今後とも計画的に森林環境教育を実施していきたいと考えています。

## 「源平屋島の森」で

### ボランティア作業

〈香川森林管理事務所〉

五月二七日、香川県高松市屋島国有林の「源平屋島の森」において森林ボランティア作業が行われ、約一三〇名が参加し



下草刈り作業の様子

この行事については、例年下草刈り中心のボランティア作業となっていますが、当所としては地域の要望等を聞く中で、作業内容にも工夫をこらしつつ、郷土の自然豊かな屋島をフィールドとした国有林のPR

この行事については、例年下草刈り中心のボランティア作業となっていますが、当所としては地域の要望等を聞く中で、作業内容にも工夫をこらしつつ、郷土の自然豊かな屋島をフィールドとした国有林のPR

当所は、香川県高松市屋島国有林のある屋島地区を巡回し、不法投棄の監視やゴミの回収を行いました。

屋島国有林の不法投棄については、高松市や警察等と連携した撤去活動、摘発により年々減少して



ました。  
このボランティア作業は、屋島の自然に興味を持ってもらうことを目的に、地元自治会、高松市立屋島東小学校、ボランティア団体等の協力を得て、毎年五月、一二月の三回行う計画としています。

ヌギ等植栽木周辺の下草刈りと、植栽木に巻きついたクズ等のつる切りを行いました。  
参加した人たちの中には、このボランティア作業に例年参加されている方も多く見られ、五月晴れの暑い中でも、作業は手際よく行われ、約一時間半程度で終わることができました。

五月三〇日、全国ごみ不法投棄監視ウィーク(三〇日～六月五日)に合わせ、高松市の主催により、当所や関係行政機関、衛生組合協議会、警察等七〇名で編成された「不法投棄者調査パトロール隊」によるパトロールが行われました。

屋島は、瀬戸内海に突き出した溶岩台地で、源平合戦の古戦場として名高い観光地であり、史跡・天然記念物や瀬戸内海国立公園に指定されているとともに、レクリエーションの森の風景林にも指定している貴重な国有財産です。

来ていますが、摘発件数としては年間五件程度あり、引き続き、日常の巡視や看板設置等による未然防止の取組により、不法投棄をなくすよう保全管理を行っていきます。

**5・30(ゴミゼロ)に  
関係機関等と連携し  
不法投棄パトロール  
〈香川森林管理事務所〉**



警察による調査の様子

## 県境をまたいで

### ニホンジカ食害対策

〈高知中部森林管理署〉

五月二十六日、当署と「三嶺の森をまもるみんなの会」の主催により、高知・徳島の県境「平和丸」と西熊山の中腹「カンカケ」で、ニホンジカ食害防護柵の設置を、平和丸ではラス巻きも行いました。

今回の作業には、徳島県側から徳島森林管理署の職員四人、高知県側から地元の大学生、市会議員、県・市や農協の職員、物部川流域の住民総勢九四名が参加しました。

「平和丸」は、最近ニホンジカの食害が急速に進み、ササの葉が地面から

直接生えているのではな  
いかと思われるほど矮小  
化しています。また、周  
辺のウラジロモミはほと  
んど食害されており、枯  
木が目立っています。そ  
こで、ニカ所に防護柵を  
張り、生き残っているウ  
ラジロモミなどにラス巻  
きを行いました。

一方で、「カンカケ」では、  
倒木により林内の日照条  
件が良くなった場所に防  
護柵を設置しました。

今回は初参加の大学生  
が多かったため、柵の張  
り方や効果を、三年前に  
設けた柵の所で確認して  
から作業を始めました。  
そのおかげで、手際よく  
作業を進めることができ  
ました。

また、当日は好天に恵  
まれ、県境の平和丸から  
は、三嶺の頂上や剣山周  
辺の山々、別府峡などが  
くっきり見えました。そ  
こで参加者は、自然を大  
切にすることの重要性を  
改めて感じたようです。

また、当日は好天に恵  
まれ、県境の平和丸から



ニホンジカ食害防護柵作設中  
(平和丸)



ニホンジカ食害防護柵の作設完成記念撮影

